

Little eArth Corporation

株式会社ラック

第14期 報告書 2020.4.1~2021.3.31

証券コード：3857

—ネットワーク社会の進展により、
時間的にも空間的にも地球は小さくなっていく—

大手企業を中心とした 確固たる顧客基盤

当社は、他社に先駆けて始めたセキュリティ対策サービスと、独立系のITベンダーとして幅広い領域のSIサービスを提供しており、大手企業を中心とした確固たる顧客基盤を有しています。

サイバーセキュリティ 対策 サービスに強み

国内最高水準の知見を持つセキュリティエンジニア陣を擁し、悪質かつ巧妙化するサイバー攻撃の脅威からお客様をお守りしています。安定した収益基盤を持つSI事業を支えに、市場での優位性が高いセキュリティ事業を軸にした企業成長を目指しています。

安心・安全なサイバー空間への貢献

SSS

セキュリティソリューションサービス

24時間365日、リアルタイムで監視する国内最大級のセキュリティ監視センターを軸に、大手企業や官公庁向けに総合的なセキュリティ対策サービスを提供しています。

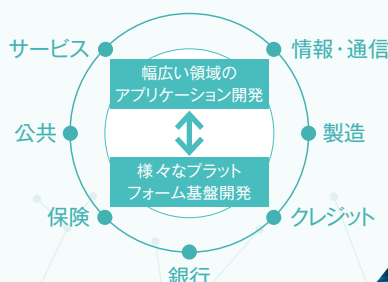


ITによる豊かな社会への貢献

SIS

システムインテグレーションサービス

大手金融機関向け基盤システム開発のノウハウを強みに、幅広い業種のお客様へアプリケーションから基盤まで一貫したSIサービスを提供しています。



進化し成長するため スピードをもって挑み続けます

売上高、営業利益は増収増益 セキュリティ事業は過去最高の売上高を更新

世界的に拡散した新型コロナウイルスによって、社会・経済環境は誰も想像し得なかった事態へと一変し、不透明な状況が続きました。そのなかで当社は、働き方改革の一環として、以前より進めていた社内IT変革とテレワーク導入の実践・検証により、在宅勤務のもとで大きな影響なく事業・企業活動を続けることができました。

2020年4月からの政府の緊急事態宣言によってお客様の企業活動が停滞し、特に第1四半期は、需要拡大を期待していた東京オリンピック・パラリンピックの延期もあるなど、セキュリティ事業の一部で苦戦をしました。このような状況下でも、企業のIT投資が堅調だったことからSI事業は伸長し、収益面で下支えするとともに、第4四半期においてセキュリティ対策サービスが順調に拡大したことで、売上高、営業利益は前期より増収増益とすることができました。新型コロナウイルスの影響を受けつつも、セキュリティ事業は過去最高の売上高を更新し、通期で増益を達成しています。またSI事業も増収増益で、利益は過去最高を更新することができました。

一方で、株式会社日本貿易保険との仕掛品が長期滞留していることから、会計監査人と協議したうえで長期滞留仕掛品評価損を特別損失として計上することにしたため、親会社株主に帰属する当期純利益は減益となりました。なお、同社との契約の取り扱いについては協議を継続している状況です。また、年間配当につきましては、予定通り1株当たり24円とさせていただいています。

不透明な状況のなかで増収ながらも 利益は横ばいを予想

新型コロナウイルスの感染者数が急拡大し、2021年に入って各都道府県で緊急事態宣言が再び出されるなど不透明な状況が続いています。そのようななか、9月に予定されているデジタル庁の創設もあり、社会におけるデジタル技術の活用に向けたIT投資は一層拡大するとともに、その裏返しでデジタル基盤を脅かすサイバー攻撃が増大し、これらを支えるサイバーセキュリティ対策も必須になっていくものと想定されます。



このような状況のもと、2022年3月期の連結業績は、売上高は増収の予想としていますが、営業利益は社内IT投資等を推進すること、また感染症の影響に未だ不透明感があることから、2021年3月期から横ばいの予想としています。

スピードをもって挑み続けます

社会環境の変化によって「パラダイムシフト」が起きており、このような時代において、当社グループが進化し続け、成長するために、3つのテーマを設定しました。1つ目は「耐久力」です。セキュリティ、SIそれぞれの基幹事業において、提案力や受注力の強化とともに収益力の強化に注力し、いかなる変化にも耐え得る体力を備えます。2つ目は「適応力」です。環境変化を成長の機会と捉え、セキュリティ事業を中心にイノベーションを通じた成長に挑みます。そして3つ目は「デジタル活用力(デジカク)」です。デジタル技術を活用して事業・業務変革を推進し、経営の高度化・機動力につなげていきます。

デジタル社会をリードするべく、これらをスピードをもって挑み続ける所存です。株主の皆様におかれましては、引き続き中長期的な視点でご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

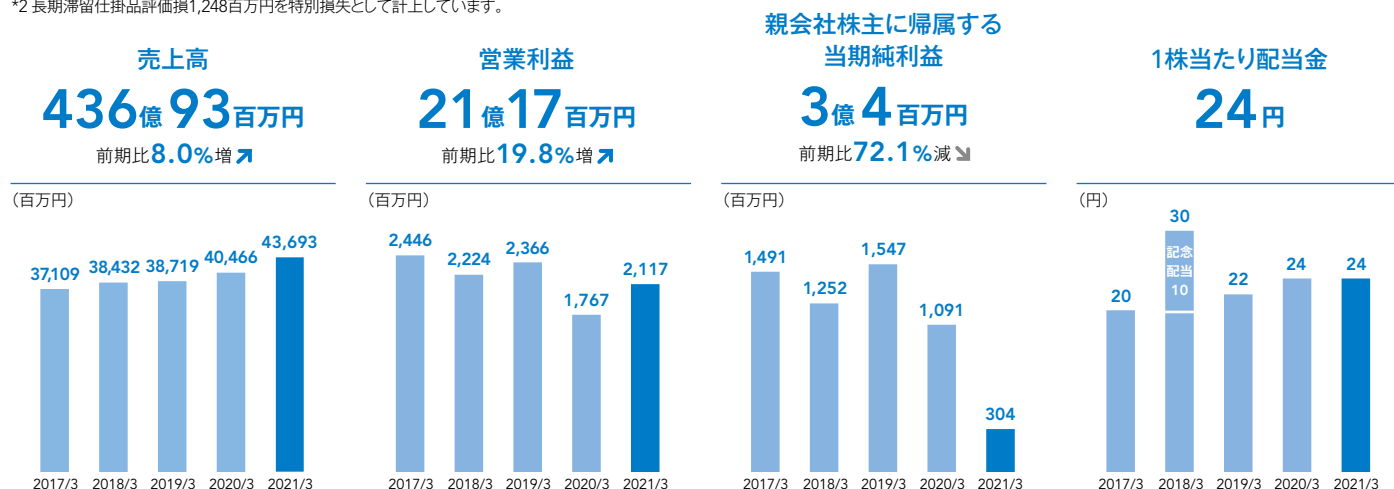
代表取締役社長

西本逸郎

▶業績ハイライト

売上高は新型コロナウイルスの影響があったものの増収となり、営業利益はセキュリティ事業の人員体制強化や社内IT投資、社員向けの特別支援一時金の支給などがありながらも増益となりました。一方、親会社株主に帰属する当期純利益は、長期滞留仕掛品評価損の計上などにより減益となりました。

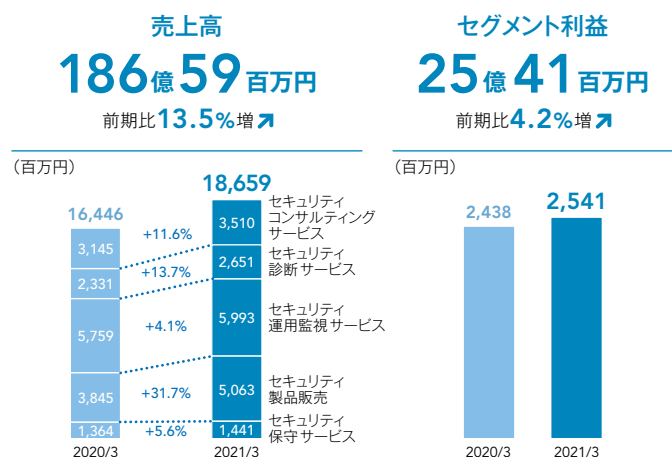
*1 在宅勤務等の負担に対する全社員への特別支援一時金の支給として約70百万円を計上しています。
*2 長期滞留仕掛品評価損1,248百万円を特別損失として計上しています。



▶事業別概況

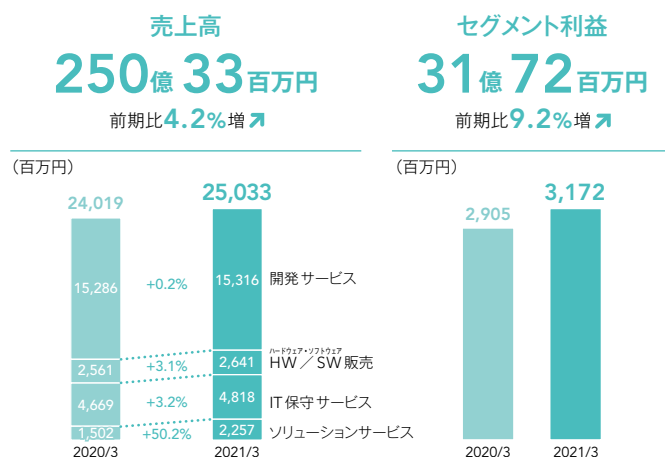
SSS 事業

緊急対応 サービスや診断 サービス、製品販売など、セキュリティ対策需要の高まりから事業が全般的に拡大基調となったことで増収となり、過去最高の売上高を更新しました。また、人員増強などの体制強化を推進しながらも増益となりました。



SIS 事業

テレワークやマルチクラウド開発などに対応したソリューションサービスや、公共および情報 サービス業向けに主軸の開発 サービスが拡大したことなどで増収となりました。開発サービスの管理体制の強化等により収益性が改善し、利益は過去最高を更新しました。



▶2022年3月期 業績予想

売上高の伸長を見込むものの、基幹システム刷新等の社内IT投資や受注体制の整備などの実施、感染症の影響なども踏まえて営業利益は前期並み、親会社株主に帰属する当期純利益は大幅増益の予想としています。

	2021/3実績	2022/3予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	43,693	47,200	+3,506	+8.0
営業利益	2,117	2,100	△17	△0.8
経常利益	2,242	2,075	△167	△7.4
親会社株主に帰属する当期純利益	304	1,390	+1,085	+356.1
1株当たり配当金(円)	24	24	±0	—

* 前期比で社内IT投資が約3.5億円増加する見込みです。

新サービスの提供

クラウド環境やテレワーク下でのセキュリティ対策サービスを拡充しました

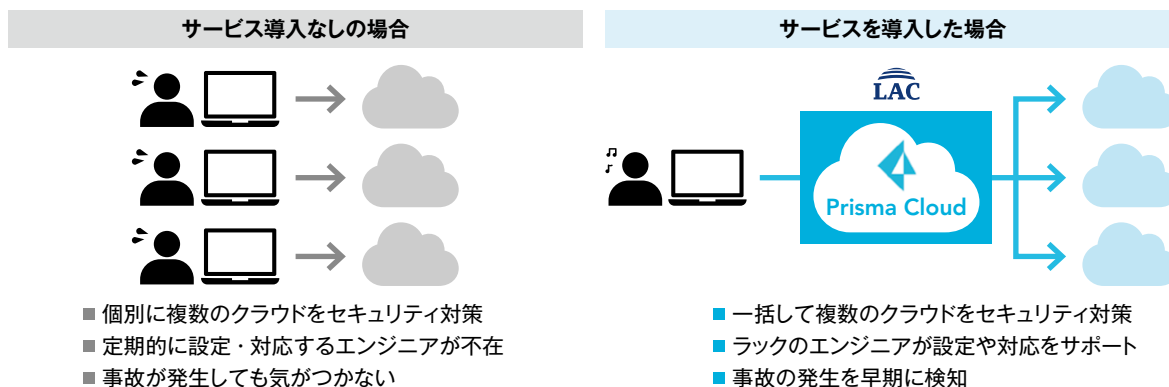
解決する課題	SDGsへの貢献
■ 情報セキュリティ事故の防止 ■ テレワークやクラウド環境の安心・安全な運用 ■ デジタルトランスフォーメーションの推進	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 16 平和と公正をすべての人に

■ クラウド環境のセキュリティ事故を防止する運用支援サービスの提供を開始

クラウド環境は、構築の手間やコストが抑えられる一方、運用する数が多くなりすぎて管理が行き届かず、情報漏えいなどにつながるセキュリティ事故も起きています。

ラックは、複数のクラウド環境の設定状況などを監視できる「**プリズマ クラウド**」のパロアルトネットワークス社の「**Prisma® Cloud**」に、独自のサー

ビスを付随した「クラウドセキュリティ統制支援サービス by Prisma® Cloud」の提供を開始しました。複数のクラウド環境で不適切な設定などがないかを一元管理でき、ラックがその運用を支援することでセキュリティ事故を防止します。



■ テレワークのセキュリティ状況を自己診断できる無料Web サービスを提供

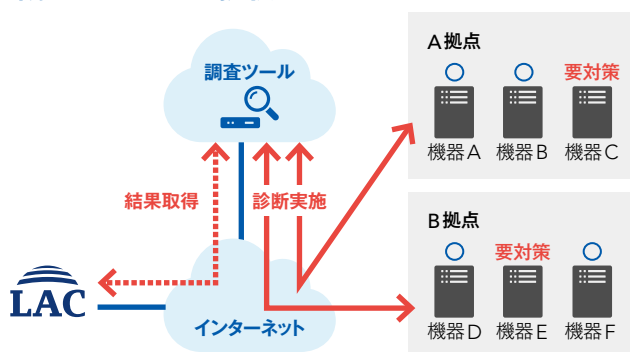
企業のテレワーク導入が進む一方で、社外からオフィスのネットワークに接続するPCなどの機器を狙ったサイバー攻撃なども増加しています。

ラックは、このような機器のセキュリティ状況を自己診断できる無料Webサービス「**テレワーク環境セキュリティ対策簡易チェック**」を公開しました。専門知識を持たない方でも、質問票にチェックしていくだけで、自社のテレワークセキュリティの診断が可能になります。



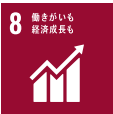
■ インターネット上に管理漏れの機器がないかを確認する調査サービスを提供

テレワーク対応やクラウドサービスの利用などによりシステムが拡張したことで、インターネットに公開されている機器やクラウドサービスの管理が難しくなっています。これを受けラックは、管理漏れの機器などがいないかを調査する「**Quick Discovery**」の提供を開始しました。対策が取れていない機器などがあった際に適切な対応例を提示することで、セキュリティ事故を未然に防ぐことができます。



社員への取り組み

総務省による「テレワーク先駆者百選」に選出されました

解決する課題	SDGsへの貢献
■ 新型コロナウイルス感染対策 ■ 働きがいの向上 ■ 柔軟で効率的な働き方の実現 ■ 社員間の一体感醸成、コミュニケーション活性化	   

ラックでは、「働きがいの向上」を目指した働き方改革を推進しており、その一環としてテレワークの推進にも注力しています。2020年3月の在宅勤務への移行も、その前年に、全社員のPCにウェブ会議システムやチャットツールを導入するなど、早い段階で準備を進めていたことから、大きな混乱もなく移行できました。このような取り組みが認められ、総務省がテレワークの導入・

活用を進めている企業を評価する「テレワーク先駆者百選」(2020年度)に選出されました。

社内ではテレワーク下においても、全社員が参加できる様々なオンラインイベントが随時実施され、社員間の一体感の醸成やコミュニケーションの活性化につながっています。



啓発活動の推進

ランサムウェア(身代金要求型)など頻発しているサイバー攻撃への注意喚起情報を引き続き発信しています

解決する課題	SDGsへの貢献
■ サイバー犯罪の防止 ■ 安心・安全なデジタル社会の実現	    

■ セキュリティレポート等により注意喚起情報を発信

昨年の緊急事態宣言の解除以降、サイバー救急センターへの相談件数が増大し、2020年度の年間対応件数は過去最高の約500件を記録しました。

独立行政法人のIPA(情報処理推進機構)発表の「情報セキュリティ10大脅威 2021」(2021年3月発表)では、「ランサムウェアによる被害」が組織部門で1位となり、サイバー救急センターでもランサムウェアの被害について多くのお問合せがあることから、各種セキュリティレポートを通じた注意喚起を行いました。

このほかにも、企業が利用するセキュリティ製品等の脆弱性について注意喚起情報を積極的に公開しました。



■ 「ゼロトラスト時代のSOC構築と運用ガイドライン」を公開

近年、オレオレ詐欺に騙されないようにするのと同じように、「相手の言うことを信用しない」で必ず裏付けを取る「ゼロトラスト」というキーワードが急速に浸透しています。

ラックと日本マイクロソフト株式会社は、ゼロトラストを基礎から知りたい企業やゼロトラスト時代のSOC*の姿を模索する企業など、セキュリティレベルを進化させるための情報を記載した

「ゼロトラスト時代のSOC構築と運用ガイドライン」を共同作成しました。ガイドラインの公開を通して、日本国内の企業や団体のセキュリティレベル向上に貢献していきます。

*「Security Operation Center」の略称。ネットワークなどを監視し、サイバー攻撃の検出や分析、対応策のアドバイスを行う組織。



会社情報

会社概要 (2021年3月31日現在)

商号 株式会社ラック
所在地 〒102-0093
東京都千代田区平河町2丁目16番1号
平河町森タワー
設立 2007年10月1日
資本金 10億円
従業員数 連結: 2,216名
個別: 1,596名
※連結・個別ともに契約社員含む

役員 (2021年6月23日現在)

取締役会長 高梨 輝彦
代表取締役社長 西本 逸郎
取締役 船引 裕司 川下 竜一郎 土屋 奈生
社外取締役 村井 純 中谷 昇 佐々木 通博
村口 和孝
常勤監査役 伊藤 信博
社外監査役 石原 康人 蜂屋 浩一

株式情報 (2021年3月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 100,000,000株
発行済株式の総数 26,683,120株
株主数 15,946名

株主メモ

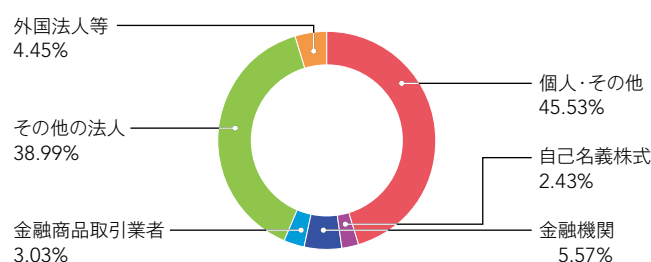
事業年度 4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日 3月31日
中間配当金受領株主確定日 9月30日
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人特別口座の
口座管理機関 三菱UFJ 信託銀行株式会社
同連絡先 三菱UFJ 信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町一丁目1番
Tel: 0120-232-711 (通話料無料)
東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)
上場市場
公告の方法 電子公告により行う。
公告掲載 URL <https://www.lac.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、
その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本
経済新聞に公告いたします。)

大株主

	所有株式数 (株)	所有比率 (%)
有限会社 コスモス	6,889,800	25.82
KDDI 株式会社	1,414,200	5.29
株式会社 SHIFT	1,334,100	4.99
ラック従業員持株会	930,810	3.48
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	744,100	2.78
三柴 照和	650,000	2.43
株式会社ベネッセホールディングス	500,000	1.87
株式会社日本カストディ銀行(信託E口)	474,900	1.77
SMBC 日興証券株式会社	360,100	1.34
高梨 輝彦	267,000	1.00

※自己株式は647,579株ですが、議決権がないため上位10名までの大株主からは除外しております。
※有限会社 コスモスは、KDDI 株式会社の100%子会社であります。

所有者別株式分布状況

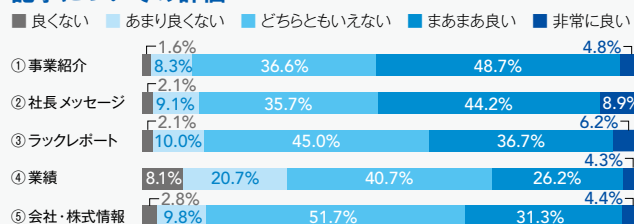


アンケート結果

第14期中間報告書のアンケートについて、ご協力いただき誠にありがとうございました。今回の調査では、1,019名の株主様よりご回答をいただきました。

今後の株式保有のご意向に関しては、約21%の株主様が「買い増し」、約71%が「当面保有」となりました。各記事に対する評価は右のグラフをご参照ください。今回、皆様のご意見等も踏まえて内容を見直していきます。今後も株主の皆様のご期待にお応えできるよう、IR活動の充実に努めていきます。

記事についての評価



ラックIRサイトのご紹介

株主・投資家の皆様の理解促進につながるよう、IRサイトを通じた情報提供の充実に取り組んでいます。

決算情報はもとより、会社や事業の特徴を紹介するコンテンツや、ガバナンスなどの企業活動情報の掲載、さらにはメールによる掲載情報の発信など、きめ細かな情報提供に努めています。このような取り組みにより、外部から一定の評価も得ています。



<https://www.lac.co.jp/ir/>



主なコンテンツ

📖 ラックガイド

ラックのあゆみや事業の特徴・強みなどの要点をわかりやすく紹介しています。

📊 ラックのESG

「環境、社会、企業統治」の観点で、社会課題に対するラックの取り組みなどをご紹介します。

✉ IRメールマガジン

決算やプレスリリース、サイバーセキュリティに関する情報を適宜、配信しています。

お問合わせ

総務・法務部 IR室

Tel: 03-6757-0107 / E-mail: ir@lac.co.jp